

取材日：2019年3月8日



## 心臓リハビリテーションを提供する クリニックを開業し地域医療に新風を。

### Point of View

- ① 心臓リハビリテーションを提供する循環器疾患中心の内科クリニックを開業
- ② 心臓リハビリテーションにかかわる施設設備の規模、マンパワーは国内トップレベルの充実度
- ③ 在宅医療も視野に入れ、広く地域医療に貢献する体制を構想中

きのうクリニック  
院長

喜納 直人先生

きのうクリニック  
看護師長 / 統括マネージャー

大塚 敏志氏

きのうクリニック  
リハビリテーション科  
科長

太田 恵介氏

きのうクリニック  
リハビリテーション科  
科長補佐

福井 泰介氏

### 心疾患の再発防止をめざし クリニックで心臓リハビリを

2018年10月、大阪府羽曳野市に誕生した『きのうクリニック』は、クリニックでありながら、循環器の専門病院にも引けを取らない心臓リハビリテーション（以下、心臓リハビリ）を提供する医療機関として注目

を集めている。

院長の喜納先生は、長年、同市内の急性期病院で循環器疾患の救急医療にたずさわり、ある思いにいたって開業を決意した。

「勤務医時代、急性心筋梗塞や急性心不全で病院に運ばれてくる患者さんをたくさん診ました。手術で一命をとりとめ、回復して退院する患者

さんを見送るときは達成感がありました。

しかし、しばらくするとそのような患者さんが、心筋梗塞の再発や心不全の増悪のため、再入院してこられるケースを多く経験し、次第になんとかして再発を防止したい、できれば心疾患の予防をしたいとの思いが強くなってきました。そして、そ



左から喜納先生、大塚氏、太田氏、福井氏

【資料1】

## リハビリ室の設備



心肺運動負荷試験装置 (CPX検査)



自転車エルゴメーター

出典：取材時撮影

れらに本気で取り組むためには、開業するしかないとの結論に行き着いたのです」(喜納先生)

開業にあたり、喜納先生がクリニックのコンセプトにしたのは、「地域の患者さんの潜在的ニーズを第一に考えた医療の提供」。経験を生かすことでニーズに応えられると判断したのが、クリニック最大の特徴でもある心臓リハビリだった。

「心臓リハビリが、心疾患の再発予防にたいへん有効なのは言うまでもないのですが、実はそれだけではありません」と喜納先生が話す。「心筋梗塞や心不全を起こすと体力に自信がなくなり、精神的ストレスから抑うつ状態になるケースもあります。ところが、心臓リハビリをすると体力に自信が持てるようになって、患者さんに笑顔が戻ってくる。

そうした効用まで望める心臓リハビリを、身近なクリニックで気軽に受けていただけるようにすることには大きな意義があると思いました」(喜納先生)

### 循環器専門の大規模病院に劣らない設備やマンパワー

それにしても喜納先生は、思い切った開業をした。クリニックで本格的な心臓リハビリを行っている例は全国でも稀。しかも、心臓リハビリの施設設備の規模やマンパワーの充実度は、循環器専門の大規模病院にも劣らない。

同クリニックのリハビリ室のスペースは、心臓(心大血管疾患)リハビリテーションの施設基準Ⅰの20㎡以上を大きく上回る135㎡。心肺運動負荷試験(CPX検査)で使用する心臓運動負荷モニタリングシステムのほか、心電図のモニターをつけて有酸素運動をする自転車エルゴメーターのフルセットが8台(【資料1】)。その8台分の心電図モニターのデータを一元的に記録・管理できるシステムを完備した。スタッフも、経験のある常勤の理学療法士2名が専任で心臓リハビリを担当している。

「正直、高額な資金を投じての開業には勇気がいりました。けれども、潜在的ニーズが確かにあり、国の健康寿命延伸に関する施策にも沿った医療だと思えます。また、43歳の働き盛りの今でなければできない挑戦だとの気持ちもあって踏み切りました」(喜納先生)

### 患者との会話を大切にしつつ生活全体の指導を行う

ところで、心臓リハビリを正確に理解している方は、患者はもちろんのこと医療関係者であっても少ないのではないだろうか。理学療法士の太田氏が、通常の整形外科で行われるリハビリテーション(以下、リハビリ)との違いについて解説してくれた。

「両者の共通点は運動療法ですが、心臓リハビリにしかないのが、患者さんの栄養や服薬の状況、日常生活習慣のすべての面をヒアリングしたうえでの指導です。

## 『心臓病教室』の告知

**きのうクリニック**

**第3回 心臓病教室**

**2019年6月29日(土)**  
時間：午後2時半～3時半

参加  
無料

**第一部：心筋梗塞・狭心症とは？**  
講師 大塚 敏志 看護師長・統括マネージャー

**第二部：心臓リハビリテーションについて**  
講師 喜納 直人 院長


**会場 LIC はびきの 2階大会議室**  
〒583-0854 大阪府羽曳野市葦里1-1-1

**お車でお越しの方**  
施設に駐車場がございます。2時間までは無料ですが、2時間を超えると以降1時間ごとに200円が加わります。

**定員 70名**

**参加方法** リハビリ室・1階受付にあります名簿にお名前をご記入をお願いします。各層スタッフにお声掛けください。  
どなたでも参加可能です！ご家族様も一緒にどうぞ！

**お問合せ** きのうクリニック  
〒583-0872  
大阪府羽曳野市はびきの2-1-19  
TEL: 072-958-3388  
担当：太田・福井



出典：喜納先生提供資料

心疾患の患者さんは、生活習慣病を合併している方が多いので、不規則な生活習慣があれば、それを改善して動脈硬化などの進行を防がなければなりません。そこで、患者さんとの会話を大切に、食事内容や薬剤を正しく服用しているかなどを聞き出しながら、生活全体の指導をします」(太田氏)

同じく理学療法士の福井氏は、心臓リハビリに特有の難しさについて話す。

「運動器などのリハビリでは患者さんに『ここが痛い、動かしにくい』といった自覚症状があるので、それがリハビリによって改善されると効果が実感されます。しかし、心臓リハビリの適応がある患者さんでは、手術をして治ったと思込んでいる方が多いのに加えて、あくまで予防

のためであり、目覚ましい変化がないので、心臓リハビリの必要性を患者さんに理解してもらうには苦労します」(福井氏)

だからこそ、継続が重要なのだと喜納先生は言う。

「患者さんのキャラクターに合わせた方法での指導が必要なので、個々にモチベーションを上げられるような引き出しを探しながら、良い方向へと軌道修正を図る。小さなことの積み重ねが、心臓リハビリの効果につながります」(喜納先生)

心臓リハビリは、単に運動を指導するだけでなく、患者の生活を知ってトータルで指導

していかねばならない。理学療法士にも、きわめて高い能力が求められるだろう。そんな心臓リハビリを、患者の潜在的ニーズを満たせる医療だと見きわめて開業した喜納先生の志の高さには脱帽するばかりだ。

### かたちによらず 自然体での医療連携を

喜納先生の病診連携に対する考え方は、いたってシンプルである。

「医療機関の機能分化が確立されている現状で、病診連携をするのは当たり前。連携にかたちから入る必要はないと思います。特にどこかの病院と強いつながりを持つというのはなく、地域の医療資源をフル活用すればいい。そうしなければ、超高齢社会は乗り切れないでしょう。

かかりつけ医としては、患者さんの病状によって、最適だと思われる病院へ紹介します。患者さんが当クリニックにまた通いたいと思えば、黙っていても戻ってこられるはず。自然なかたちで病診連携ができればそれが理想です」(喜納先生)

診診連携についても、柔軟で自然体。他のかかりつけ医に診療してもらいながら、心臓リハビリだけのために同クリニックに通院する患者もいるという。

「かかりつけ医は近くにいるけれども、心臓の機能を高めるために心臓リハビリは当院でと望む患者さんも気持ち良く迎えています」(喜納先生)

また、地域の多職種との連携に関しては、看護師長で統括マネージャーでもある大塚氏が大いに活躍している。

「地域の多職種の勉強会などには積極的に出ていくようにしています。そういった会で、介護関連の事業所の方などから、かかりつけ医との連携がとれないという話をよく耳にします。かかりつけ医に質問や相談をしたいが、多忙のため十分な時間をとれず、患者さんへの対応が進まないというのですね。

喜納先生は、地域の多職種の会への出席をお願いすれば快く、むしろ積極的に参加していただきます。ですから、そうした機会をできる限り利用して顔が見える関係をつくり、当院と地域の多職種の方々とが連携をとりやすい環境をつくっていかうと考えています」(大塚氏)

### 患者の言葉に勇気づけられ やり甲斐を実感する日々

クリニックのオープンから5ヵ月がすぎ、心臓リハビリを通して地域

の患者と接してきたリハビリスタッフたちは、確かな手応えを得ているようだ。

「以前、勤務していた総合病院でも入院患者の心臓リハビリを担当していましたが、日常生活にまで深く入り込んで、患者さんに接するケースは多くありませんでした。

しかし、当院では、患者さんの自宅での生活にまで介入させていただいているので、とてもやり甲斐を感じています」(太田氏)

「継続して心臓リハビリに通っている患者さんが、家でできるストレッチはないかなどと相談してくれたりすると、私たちがたずさわっているリハビリが、いつも患者さんの頭において生活の一部になっているのだとわかり、うれしいですね」(福井氏)

看護師の大塚氏は、患者からかけられる言葉に勇気が湧くと話す。

「多くの患者さんから、『この状態だったら、以前は入院していたが、ここで診てもらえたから入院しなくて

すんだ。きのうクリニックができて良かった』と言っただき、クリニックの存在意義を実感しているところです。

誰も入院したいと思っている人はいない。みんな住み慣れた地域から離れたくないのです。多くの人が在宅での生活を望むのであれば、その希望に応えられるよう、診療と心臓リハビリで、患者さんの心疾患の再発予防、QOL改善のために全力で取り組んでいきます」(大塚氏)

### 次のニーズを見据えて 新しい在宅医療を構想中

先述したように、心臓リハビリの意義を正確に理解している方は、まだまだ少ない。直近の課題は、心臓リハビリについての啓発だと喜納先生は語る。

「心臓リハビリをしっかりと続けている患者さんには、良くなっている自覚もあり、元気になったと喜んでくれます。ただ、心臓は悪いところ

が外から見えないため、先ほども話がありましたように、心臓リハビリに目的意識を持ちにくい側面があります。

ひとりでも多くの患者さんに心臓リハビリの多大な効果を知っただき、取り組もうという動機づけを持ってもらうには、地道な啓発活動しかありません」(喜納先生)

同クリニックでは、心臓リハビリを正しく理解してもらうため、通院している患者さんとその家族を対象に、『心臓病教室』を定期的に開催している(【資料2】)。

自身のクリニックから心臓リハビリの啓発活動を始め、次のステップとして、地域の介護施設や多職種が集まる会合に足を運び、地域に心臓リハビリを広めていく活動もスタートさせているようだ。

さて、「地域の潜在的ニーズに応える」をコンセプトに開業した喜納先生は、早くも次のニーズを見据えて行動を開始している。それは、在宅医療。

「在宅医療は、これまで経験のない分野ですので、患者さんやご家族、介護施設の方々から、いろいろなお話を聞いて勉強させてもらいながら少しずつ準備を進めているところです」(喜納先生)

心臓リハビリを大胆にとり入れた意欲的なクリニックを開業した喜納先生である。在宅医療の分野においても、おそらく斬新なアイデアを導入し、全国でも屈指のクリニックと言われる存在になるに違いない。

#### きのうクリニックのメンバー



#### きのうクリニック

〒583-0872  
大阪府羽曳野市はびきの2-1-19  
TEL : 072-958-3388  
<http://kino-clinic.com/index.html>